

2020年度（令和2年度）事業報告

（2020年4月1日から2021年3月31日まで）

全日本板金工業組合連合会

I. 概況

新型コロナのパンデミックが地球上のあらゆる国や地域に大きな影響を及ぼした。

日本も例外ではなく、新型コロナは2020東京オリンピック・パラリンピックが史上初となる開催延期となり、当業界随一の全国建築板金業者静岡大会も延期（2021年大会も再延期）となったほか、常態化した豪雨災害や大きな地震も頻発した。

経済指標は建設投資63兆1,600億円（前年度比-3.4%）、新設住宅着工戸数82万戸（同-9.9%）、非住宅着工床面積66,450千㎡（同-11%）、鉄鋼粗鋼生産8,219万トン（-16.2%）となった。

これらの社会情勢を踏まえながら全板連グループ各団体・企業と連携を図りながら下記の重要方針を掲げた事業を計画したが、新型コロナ禍により大きな制約を受けることとなった。

<2020年度 重要方針>

1. 基幹技能者制度の有効活用（建設キャリアアップシステムとの連携）
2. 次世代後継者の継続的な育成強化
3. 非組合員の加入推進
4. 福利厚生事業の加入者増強の促進
5. 技能・技術の継承の推進
6. 責任施工保証の原点に立ち返った制度推進

II. 実施事業

1. 総合事業

(1) 第72回全国建築板金業者静岡大会 ⇒開催中止（1年延期）

期日	2020年5月21日（木）
会場	「ツインメッセ静岡」
参加者数	—
前夜祭	「ホテルグランヒルズ静岡」

2. 専門事業

(1) 組織関連事業（担当 沖野東陽副理事長）

①中長期的な賦課金・会費のあり方

賦課金の改定は行わず、経費の節減、収益事業の強化等により経費を確保した。

「新型コロナウイルス感染症対策ブロック強化費」を各ブロックに対して支給した。

②新規組合員の加入促進

従前同様に非組合員からの登録基幹技能者の各種問い合わせの際に組合加入のメリット等を説明し、組合への加入に努めることを各組合と連携して実施した。

③責任施工保証の原点に立ち返った制度推進

制度見直しは未着手であったため、継続案件とする。

関連保険制度（損害、賠償）の実績は、あいおいニッセイ同和損害保険会社「賠償責任保険」644件（前年度比98.5%）、AIU損害保険株式会社「第三者賠償責任保険」101件（同94.4%）、全国中小企業団体中央会「ビジネス総合保険」は2件（同100%）となった。

④定款（第26条、第51条）の変更を行った（2021.1.27付認可）。

(2) 福利厚生関連事業（担当 宇佐見進副理事長）

①各種保険制度の加入者増強の推進

あいおいニッセイ同和損害保険「全板連福祉補償制度」は730名（前年度比95.8%）、AIU損害保険「建設業災害補償制度」は46件（同95.8%）、全国中小企業団体中央会「業務災害補償制度」は11件（同91.7%）の加入状況となった。

(3) 教育訓練関連事業（担当 野溝年成副理事長）

①登録基幹技能者の配置義務化と正当な評価支援

②技能検定への継続対応

中央技能検定委員として学科試験問題確認等の対応を行った（書面对応）。

・建築板金職種（内外装板金作業1・2級）：岩室久夫（栃木）・野溝年成（茨城）

（同 基礎級）：森川文明（千葉）

（ダクト板金作業1・2級）：山田 上（埼玉）・大橋恵太郎（東京）

（同 基礎級）：中村敏行（千葉）（敬称略）

③技能・技術の継承の推進

支援協力を行っている全国建築板金競技大会は、本年度は中止となった。

(4) 広報関連事業（担当 東雲朝則副理事長）

①広報活動の継続と業界PRの推進

板金新聞の一層の充実に努め、業界のPRを推進した。

新PR動画の制作を行い、新ウェブサイトにおいて閲覧を可能とする。

②板金新聞の活性化と活用

コロナ禍で主要事業が実施されない状況下での掲載記事を模索・工夫した。

③ウェブサイトの有効活用

全面的なりリニューアルのための作業を行った（公開は2021年度5月予定）。

3. 顕彰事業（敬称略）

(1) 褒章

黄綬褒章	吉水 博（島根県）
------	-----------

(2) 大臣表彰

卓越した技能者（厚生労働省・現代の名工）	杉本雅則（北海道）
----------------------	-----------

(3) 全国建築板金業者大会における表彰

第72回全国建築板金業者静岡大会 ⇒開催は中止したものの、一部は実施

種別	被表彰者数
責任施工保証制度推進組合表彰 （保証書発行枚数・保証書発行率）	各3組合 合計6組合
収益事業推進組合表彰 （指定商品部門・保険関連部門）	各部門3組合 合計6組合
全国建築板金競技大会	2～5位のみ

(4) その他の表彰（第42回全国建築板金競技大会上位入賞者 ⇒2～5位は実施）

種類	内容	受賞者（敬称略）
国土交通大臣賞	建築技術の部 第1位	桂田 睦（滋賀県）
厚生労働大臣賞	技能競技の部 第1位	古市友之（北海道）
国土交通省 土地・建設産業局長賞	建築技術の部 第2位	千喜良幹嗣（新潟県）
厚生労働省 人材開発統括官賞	技能競技の部 第2位	粒来雄貴（岩手県）
静岡県知事賞	建築技術の部 技能競技の部 第3位	武井陽一（山梨県）
		島津隆行（奈良県）
富士宮市長賞	建築技術の部 技能競技の部 第4位	斉藤哲広（茨城県）
		西嶋拓也（山口県）
全国建設産業 教育訓練協会会長賞	建築技術の部 技能競技の部 第5位	吉岡智佳（富山県）
		坂東右京（大分県）

4. 青年部事業（担当 川島隆司副理事長）

支援及び協力を行った。

(1) 第45回通常総会／第21回全国青年部部長会議

行事名	期日	会場
第45回通常総会	5.1（金）	（書面議決、リモート会議）
第21回 全国青年部部長会議	中止	—

日板協・内閣府届出継続事業の「建築板金業次世代研究会」「全国建築板金競技大会」においては実務的な運営を担い中心的な役割を果たしているが、2020年度はいずれも新型コロナ感染拡大回避のため開催中止となった。

Ⅲ. 庶務事項

1. 会員数及び出資口数の状況

(1) 年対比

	2019年度	2020年度	増減数
会員数（組合）	46	46	±0
出資口数（口）	460	460	±0
組合員数 （事業所）	7,616	7,535	-81

2. 役員に関する事項

(1) 役員の氏名・役職及び担当（理事15名、監事2名）

役職	氏名	担当	役職	氏名	担当
理事長	天野宏昌	総括	理事	小山内喜代司	
副理事長	小野寺俊一	商品開発関連 （日板協）	理事	徳永正典	
副理事長	沖野東陽	組織関連	理事	古元昭治	
副理事長	宇佐見進	福利厚生関連	理事	中島福則	
副理事長	川島隆司	青年部	理事	山本孝雄	
副理事長	野溝年成	教育訓練関連	理事	熊谷義秀	
副理事長	東雲朝則	広報関連	監事	岩室久夫	
副理事長	岩間辰夫	環境・エネルギー 関連（日板協）	監事	田中英明	（税理士）
専務理事	小島義郎	本部			

3. 職員に関する事項

(1) 職員の状況

	前期末	当期増加	当期減少	当期末
人数	2人	0人	0人	2人

4. 会議の開催

(1) 総会 (1回)

回数等	期日	会場	主な内容
第54回 通常総会	5.20(水) 12.2(水)	「ホテルセンチュリー静岡」 「衆議院第二議員会館」	事業報告・計画、収支決算・予算等の承認ほか

(2) 理事会 (2回) ⇒当初予定3回

回数	期日	会場	主な内容
第1回	4.30(木) 7.22(水)	「板金会館」	第54回通常総会上程案の決定 ほか
第2回	6.17(水) 11.5(木)	「板金会館」	2020年度事業推進状況の確認 ほか
第3回	11.5(木)	—	—

(3) 正副理事長会議 (3回) ⇒当初予定4回

回数	期日	会場	主な内容
第1回	4.9(木) 7.9(木)	「板金会館」	第54回通常総会上程案の確認 ほか
第2回	6.4(木)	—	—
第3回 第2回	10.9(金)	「板金会館」	2020年度事業推進状況の確認 ほか
第4回 第3回	2021.1.28(木) 2021.3.11(木)	「板金会館」	第72回静岡大会の開催可否 ほか

(4) 全国理事長連絡会議 (1回)

回数	期日	会場	主な内容
第1回	12.2(水)	「衆議院第二議員会館」	経過報告と依頼事項の伝達 ほか

(5) 監事会 (2回) 定款第42条に基づく監査

回数	期日	会場	主な内容
第1回	4.23(木) 7.2(木)	「板金会館」	2019年度 決算監査
第2回	10.22(木)	「板金会館」	2020年度 中間監査

<参考>

青年部行事：主要会議を掲載（幹事会6回、必要に応じて各種委員会などをそれぞれ開催）

種別	期日	会場
第1回幹事会	4.15(水)	(リモート会議)
第2回幹事会	5.1(金)	〃
第45回通常総会	〃	(書面議決、リモート会議)
第21回全国青年部部長会議	(中止)	—
第3回幹事会	7.10(金)	(リモート会議)
第4回幹事会	9.11(金)	〃
第5回幹事会	11.20(金)	「板金会館」(リモート併用)
第6回幹事会	2021 2.26(金)	〃

5. 会員組合並びにブロックとの連携

6. 関係諸機関・団体との連携（抜粋）

※コロナ禍により、従前通りの出席はなかった。

7. 関連省庁などとの連携

(1) 経済産業省

定款変更之际し、連携を図った。

(2) 厚生労働省

技能者表彰審査委員会（卓越技能者）に野溝年成副理事長を派遣した。

（リモート開催）

(3) そのほか

行政からの要請に応じ、それぞれ専門分野へ委員を派遣した。

（P.2「技能検定への継続的対応」参照）